No.91

社教連会報

発行　一般社団法人　全国社会教育委員連合
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6
日本弘道会ビル７階　TEL 03-6380-8540

頼りにされる全国社会教育委員連合をめざして

全国社会教育委員連合 常務理事・事務局長　稲葉　隆

令和３（２０２１）年８月下旬から常務理事を務めています稲葉隆です。

私は、長く東京都で社会教育行政・施設の職員として仕事をしてきましたので、全国社会教育委員連合の大会や総会へ出席するなどの機会がありましたが、運営に関してはほとんど関わりがありませんでした。

その私が全国社会教育委員連合の「中の人」となって約一年が経過しました。かつて自分が経験してきた大会や総会等は対面で行われていましたが、着任時には新型コロナの感染拡大の影響を受けて、理事会・総会が書面審議、大会が誌上開催やオンライン開催へと開催方法が大きく変わっていました。

令和２（２０２０）年４月頃から感染拡大を繰り返したこの２年間を振り返ってみますと、当初は、全国各地の社会教育委員活動の抑制が余儀なくされ、また社会教育委員の会議等も延期等が続いたようです。しかし最近では、さまざまに新型コロナの感染対策が取られて、地域の社会教育活動が取り組まれ、また、社会教育委員の会議ではオンライン会議やハイブリッド会議の方法を用いた開催がされるようになりました。

社会教育委員は全国の市町村では97％近い設置率となっています。社会教育委員制度は、行政外の民間人の社会教育に関する優れた意見を社会教育施策の展開に生かそうと構想されたもので、各委員が様々な視点から地域の社会教育のありようを考えることが期待されたものです。このことは法制定から70年以上が経過した今日でも変わらず、特に現在の地方分権、住民参加などの観点からも、重要な制度・しくみだと考えられます。

コロナ禍にありながらも今日、各地の社会教育の活動、社会教育委員の活動が再開されてきました。社会教育委員の今日的検討課題として、地域の課題や学習ニーズを探り、新型コロナという障壁に遭遇した地域におけるこれからの社会教育活動の展開の道筋を検討し、社会教育に関する諸計画を立案していくことが求められているのではないでしょうか。

今後の全国社会教育委員連合の活動や運営が、全国の社会教育委員活動の一層の充実に向けて、都道府県・政令指定都市の社会教育委員連絡協議会等の皆様に、さまざまな面で頼りにされるよう、引き続き取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

稲葉　隆
（いなば　たかし）

■プロフィール
昭和56（１９８１）年以降、東京都府中青年の家・武蔵野青年の家、都立多摩社会教育会館、東京都教育庁社会教育課・生涯学習課、都立中央図書館等に社会教育主事として勤務。また、平成18（２００６）年から３年間は、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターに専門調査員として勤務。
これまで國學院大學、文教大学等で社会教育主事等養成課程科目の非常勤講師を務める。
令和３（２０２１）年８月から現職。

広島県からのメッセージ

これからの時代を見据えた学びをデザインする

ＶＵＣＡ（Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとった造語）と呼ばれるような変化が激しく、将来の予測が困難な時代において、一つの鍵を握るのはデジタル技術ではないでしょうか。

新型コロナウィルス感染症の影響もあり、ここ数年で社会全体のデジタル化が一気に進みました。テレワークやオンライン会議などが一般的になり、時間や空間を超えて、国内はもとより、世界中の様々な人や地域との交流が可能となりました。いわゆるニューノーマルと呼ばれる新しい生活様式・企業活動・働き方などが人々の間で定着しつつあります。

こうした状況の中で、前々回及び前回の全国社会教育研究大会は、コロナ禍で制限がある中、オンラインを活用して、無事に大会を終えることができました。

一方で、デジタル技術の進展に伴って、デジタル・ディバイド（情報格差）の問題や、人と人とが直接会えない難しさや物足りなさなどの課題を感じている人も少なくないはずです。実際に、参加者が直接会って対面で話をする場合、相手の表情の変化や感情の機微をくみ取りやすく、オンラインに比べて意思疎通が円滑に行いやすくなるというメリットがあります。そして何より、人と人との出会いというフィジカルな実体験は、強いつながりを生み出すものであり、簡単にオンラインに代替できるものではないという実感をコロナ禍の中で改めて誰もが感じられたことと思います。こうした声や思いを踏まえ、今回の広島大会は、多くの皆様の御理解・御協力をいただきながら、３年ぶりに対面集合型での開催を予定させていただくこととなりました。

対面とオンラインのメリット・デメリットはそれぞれありますが、変化が激しく、様々な課題が高度化・複雑化する時代だからこそ、多様な主体が連携・協働し、デジタル技術も効果的に活用しながら、一人一人がよりよい社会をつくる当事者として、それぞれの舞台で活躍していくことが求められています。こうしたニーズに応えるためにも、今こそ、皆で知恵を出し合いながら、私たちが携わる社会教育を時代に合わせてアップデートさせていく必要があるのではないでしょうか。

広島大会では、「多様性を生み出し〝百万一心〟の心根で未来をつくる社会教育!!」を大会スローガンに掲げ、研究主題を「これからの時代を見据えた学びのデザイン～ニューノーマル時代における社会教育の在り方～」と設定して、全国各地の社会教育関係者が一堂に会し、皆が心を一つにして、これからの時代を見据えた学びをデザインするきっかけをつくってまいります。

他方、令和５年５月には、国際平和文化都市広島で、先進７カ国首脳会議（Ｇ７サミット）が開催されます。県内の官民による準備組織「広島サミット県民会議」では、多彩な行事で地元の機運を高め、被爆地開催の意義や地域の魅力を国内外に伝えるべく、「おもてなし」や「平和の発信」、「成果を未来へつなぐ」といった各種事業が計画されています。このＧ７サミットに先駆けて、ここ広島の地で、全国の皆様と共に、社会教育を基盤とした「人づくり・つながりづくり・地域づくり」について議論し、平和でよりよい未来を創造する社会教育の第一歩を踏み出せることを大変嬉しく思います。

皆様の御参加を心よりお待ちしております。

第64回全国社会教育研究大会広島大会
実行委員会委員長　林　孝

第６４回全国社会教育研究大会 広島大会
令和４年度中国四国地区社会教育研究大会 ご案内

多様性を生み出し“百万一心”の心根で未来をつくる社会教育！！

広島県は，瀬戸内海の多島美が風光明媚な景観を作り出す沿岸地域や中国山地の山々が四季折々の表情を見せる山間地域などの豊かな自然があり，世界遺産に登録されている厳島神社や原爆ドームには，国内外から多くの人々にお越しいただいています。

本大会の会場は，緑豊かな平和記念公園内にあります。この「平和」を発信し続ける地に，皆様をお迎えできることは，社会教育を含めた全ての教育の基盤となる「平和」について，改めて考えていただける機会になると思っています。

さて，「人生100年時代」や「Society5.0 の実現」，コロナ禍に伴う「新しい生活様式」など，社会全体が急速に変化する中で，私たちは，より複雑化する課題に直面しています。このような時代だからこそ，多様な主体と連携・協働することが，より一層求められているのではないでしょうか。大会スローガンにある「百万一心」は，広島ゆかりの名将"毛利元就"が残した「心を一つに協同一致して事を行う」という意味の名訓であり，社会教育が目指す「連携･協働」，「開かれ，つながる社会教育」に通じるものです。皆様と心（目的・目標）を一つにして，「未来を創造する社会教育を実現しよう！」との思いを込めています。

全国の英知を結集し，これからの時代を見据えた学びをデザインするきっかけとなる大会を皆様と一緒につくってまいりたいと思っています。

広島県社会教育委員連絡協議会会長
第64回全国社会教育研究大会広島大会実行委員会委員長　　林　　孝

◇大会概要

1 研究主題　これからの時代を見据えた学びのデザイン
～ ニューノーマル 時代における社会教育の在り方 ～

2 期　　日　令和４年１０月２６日（水）～２８日（金）

3 会　　場　10月26日（水）　広島YMCA国際文化センター　広島市中区八丁堀７-１
10月27日（木）　広島国際会議場　広島市中区中島町１-５
10月28日（金）　広島国際会議場　広島市中区中島町１-５

4 大会日程

10/26（水）							社教連 理事会 14:00～15:30	都道府県･政令指定都市 社会教育委員連絡協議会等 事務局担当者会議 15:45～17:15	
10/27（木）		社教連 総会 10:00～11:00	関係者打合せ 11:00～12:00	受付 11:30～12:30	歓迎 アトラクション 12:30～12:50（10 分休憩）	開会行事 表彰式 13:00～13:50（10 分休憩）	記念講演 14:00～15:20（10 分休憩）	シンポジウム 15:30～17:00	閉会行事 17:10 終了
10/28（金）	受付 9:00～	分科会 9:30～12:00							

5　分科会

分科会	研究主題	発表県	
第１分科会	地域学校協働活動による地域力の向上	青森県	高知県
第２分科会	家庭教育支援・子育て支援の充実	鹿児島県	沖縄県
第３分科会	人生100 年時代を見据えた社会教育の在り方	富山県	広島県
第４分科会	社会構造の変化に伴う社会教育施設の役割	島根県	岡山県

6　大会参加費　　5,000円／人（大会資料代）

北から南から

持続可能性に向けた社会教育

仙台市社会教育委員会議
委員長　松本　大

今期の仙台市社会教育委員の会議は、委員が自主的にテーマを定め、それについて協議や調査研究を重ね最終的な提言を行う予定である。この原稿を執筆している現時点でテーマは確定していないものの、持続可能性を主たるキーワードにする方向で進んでいる。言い換えれば、仙台市における多くの委員は、持続可能性を市の社会教育の重要な課題であると共通して認識しており、これが今後の社会教育の鍵であると期待を込めていることになる。

その背景として、委員から挙げられたのは、一つには社会教育において担い手が不足しているという現状であった。特に子育て世代の参加に関する問題、具体的にはリーダーの人材育成の問題や、誰も取り残されることのないように多様な人びとの参加を可能にする機会や場の必要性が指摘されている。

もう一つには地域文化の振興・継承の問題であった。地域の行事や生業の存続など、地域文化の持続可能性は地域社会そのものの持続可能性も含んだ問題として指摘されている。

これらを大括りにして考えると、社会教育における持続可能性は、人びとの参加をめぐる問題へと関連づけられそうである。社会教育において誰が、いつ、何に、どのように参加するのか。参加はどのように広がるのか。またこれは、参加の深まりの問題でもある。「担い手としての参加」とはどのように関与することなのか。参加の深まりは、その人の成長や学習の次元にも関係するし、そうした参加や成長を可能にし支援するシステムやコミュニティの側面とも関連する。

これらの課題は容易に解決できるものではない。しかし、実は仙台市には解決のヒントになる取り組みも多数存在している。例えば仙台市は、学校を基盤とした多様な生涯学習活動を推進してきた。このなかで長年継続している取り組みに社会学級がある。これは教育委員会が市立小学校等に開設する学校開放講座であり、学区内に居住する成人を対象に、学級生自らが学習計画の立案や運営を行うものである。社会学級の連絡調整やメンバーの学習を支援する仙台市社会学級研究会は昭和30年に設立され、現在も活発に活動が継続している。主体的な参加のもとで学習とイノベーションを重ねながら活動が展開されてきたこと、ここに持続可能性のヒントがあるように思う。

他にも市内には多くの社会教育の取り組みが蓄積されており、社

社会教育の明日を拓く　**社教情報** No.87

特集テーマ　地域防災と社会教育
＜巻頭言＞　地域の多様な主体と連携・協働した防災教育の推進を
文部科学省総合教育政策局　森本　晋也
＜特集＞　藤野 真一郎、吉門 直子、増田 恵美子、諏訪 清二、野々村 敦子
＜この人に聞く＞　加藤　篤氏　取材　清國　祐二
＜思考と提言＞　緊急提言をふりかえって―社会教育を止めるな！の共通意識―　雲尾　周
＜社会教育委員の活動＞　木暮 照正（福島県）・木本 圭子（福岡県）
＜答申・提言＞　和光市社会教育委員会議「和光市における学校・家庭・地域の連携・協働を支える社会教育の役割について」（答申）　細川　恵夢
＜社会教育委員Q&A＞　地域学校協働活動の推進　神部　純一
編集・発行　（一社）全国社会教育委員連合

会教育をとおして豊かに人材が育ってきている。これらの活動に学びながら、持続可能性に向けた社会教育のあり方について、これから委員の皆さんと一緒に考えていきたい。

大人の学びを止めない社会教育

～次世代によりよい地域を繋いでいくために～

鹿児島県社会教育委員連絡協議会
会長　岩橋　恵子

今年（令和４（２０２２）年）の６月、モロッコで行われたユネスコ国際成人教育会議に、オンライン参加する機会を得た。コロナ禍ゆえ現地参加者は限られていたものの１４２カ国の政府機関から市民社会機関の代表者まで多数参加し、ＳＤＧｓやジェンダー、気候変動と災害、平和、アクティブシティズンシップ教育、コミュニティラーニングセンター（日本での公民館に相当）、包摂・参加・持続可能な社会など、世界共通の課題と教育政策提言が３日間にわたり議論され、画面からもその熱さが伝わってきた。

それら議論に共通していたのは、これらの課題解決は先延ばしにできないゆえに、「大人の学び」の重要性がかつてなく強調されたことだ。次世代に負の遺産を渡さないために、今の社会を担い意志決定に大きな影響力をもつ大人の学びと実践が変革の力（transformational power）であると、闘いともいえる緊張感をもって各国での取り組みが論じられ、成人教育推進のための提言がなされた。

それは、私の住む鹿児島においても、地域で社会教育活動に取り組んだ人々の奮闘にも通底している。例えば、戦争の傷跡も残る築１１０年の駅舎での住民による平和コンサート、火山地帯で暮らす人々による火山の仕組みを学びながらの防災やジオパーク活動、障がい者を含む市民と学びながら営む有機農業、海や山林の保全を核としながらの環境学習、ごみの日常的リサイクルを中心とした循環のまちづくりの推進・・・等々、いずれもコロナ禍で縮小が余儀なくされつつも、住民の声や行政、社会教育委員の励ましに支えられ方法を工夫しながら、それらの実践は決して学びを止めることはなかった。「子ども達にこのまちを誇りに思ってほしいからね」という実践を担った住民の言葉には、地域社会を守りよくしていくためのバトンを繋ごう、そのために私たちの学びを諦めてはならないという強い思いがある。

喫緊の課題が山積する時代だが、それでも各々の国や地域でそれらに立ち向かおうとする大人の学びを止めてはならないとの共通の思いで、世界は繋がっている。その環の中で微力を注ぎ、委員の皆さんと共に社会教育の拡がりに尽力していきたい。

―改訂版―
社会教育委員のためのＱ＆Ａ

社会教育委員　必読の一冊

A5判　定価1,320円（税込）
企画・編集／
（一社）全国社会教育委員連合
発行／（株）美巧社

主な内容
社会教育と生涯学習
「諸計画を立案する」とは
教育委員会への助言の方法
「環境を醸成する」とは
　都道府県教育委員会の事務
「公の支配に属しない」とは
「組織的な教育活動」とは
「諮問に応じ」とは
　社会教育委員制度の活性化
　市町村教育委員会の事務
「社会教育を行う者」と社会教育委員
「専門的技術的指導又は助言」とは

理事会・総会報告

令和３年度
第３回理事会・総会の開催

令和３年度第３回理事会及び総会は、全国社会教育研究大会（石川大会）開催時の10月27・28日に実施する予定でしたが、新型コロナの感染拡大により、大会の開催方法を変更せざるを得ず、理事会及び総会は開催延期となりました。

その後も感染拡大は続き、理事会は11月24日(水)、総会は12月17日(金)を開催日として書面審議により開催されました。

それぞれ議題は第１号議案から第３号議案まで諮られ、全ての議案が承認されました。

議事

第１号議案　第64回全国社会教育研究大会（広島大会）について
第２号議案　第65回全国社会教育研究大会（宮崎大会）について
第３号議案　第66回全国社会教育研究大会の開催地区について

報告事項

１　第63回全国社会教育研究大会（石川大会）について
２　今後の理事会・総会の予定について

なお、理事会では、会長及び常務理事の職務の執行状況報告として、今期の開始以降の主要な事項をまとめた資料が示されました。

令和３年度
第４回理事会・総会の開催

令和３年度第３回理事会及び総会は、当初、令和４年２月25日(金)に通常の対面開催を予定していましたが、新型コロナの感染拡大による緊急事態宣言発令・延長により開催方法の変更を余儀なくされました。

第４回理事会は、２月25日(金)に、試行的にオンライン会議により開催されました。理事会では、以下のすべての議案について承認されました。また２件の報告事項がありました。

第４回理事会

議事

第１号議案　令和４年度事業計画（案）・収支予算（案）について
第２号議案　第64回全国社会教育研究大会（広島大会）について
第３号議案　第65回全国社会教育研究大会（宮崎大会）について
第４号議案　第66回全国社会教育研究大会（茨城大会）について
第５号議案　全国大会開催地区ローテーションについて
第６号議案　一般社団法人全国社会教育委員連合定款の一部変更について
第７号議案　事務局長の選任について

報告事項

１　第63回全国社会教育研究大会（石川大会）について
２　当面の運営について

会長から令和３年度に取り組んだ運営上・財政上の改革について総括的に報告し、令和４年度に取り組む課題等について説明がなされた。

第４回総会

第４回総会は３月25日（金）付書面審議により開催されました。議事は第４回理事会の議事第１号議案から第６号議案までが諮られ承認されました。報告事項では、理事会における報告事項と事務局長の選任等が報告されました。

令和４年度
第１回理事会・総会の開催

令和４年度第１回理事会及び総会は、令和４年５月20日（金）に、約２年ぶりに、対面による通常開催になりました。

また、総会では、文部科学省の藤原章夫総合政策局長に来賓としてご臨席いただき、開会時にご祝辞をいただきました。

理事会及び総会の議題等は次のとおりで、いずれも承認されました。

議事

第１号議案　令和３(２０２１)年度事業報告・決算報告について

事業報告

Ⅰ　会議
１総会・理事会
それぞれ４回を予定
２事務局担当者会議
開催中止

Ⅱ　事業
１研究大会
（１）全国大会を石川県で実施
（２）地区大会
北海道、東北、関東甲信越静、東海北陸（全国大会と同時開催）、近畿、中国・四国、九州、政令指定都市の８ブロックで開催（内容詳細は機

関紙「社教連会報」第90号で既報）

（3）国内研修（社会教育委員活動活性化セミナー）

応募無し

2調査

社会教育委員に関する調査（令和3年9月実施）

調査結果は機関紙「Newsletter」26号に掲載

3広報事業

（1）機関紙「社教連会報」の発行

・89号（令和3年12月発行）

・90号（令和4年2月発行）

（2）機関紙「Newsletter」の発行

・26号　令和4年3月発行・ホームページに掲載

4助成事業

応募無し

5情報公開事業

ホームページを活用し、広く情報を公開。

6表彰事業

社会教育の振興に顕著なる功績のあった者62名を表彰した。受賞者一覧は機関紙「社教連会報」第89号に掲載。

7出版事業

（1）機関誌『社教情報』の発行

・第85号　令和3年9月発行

特集：社会教育委員の新たな流儀

・第86号　令和4年2月発行

特集：地域学校協働活動と社会教育

（2）参考図書『住民参画による社会教育の展開』及び『【改訂版】社会教育委員のためのQ&A』の継続販売

8その他の事業

決算報告

令和3年度には、さまざまな見直しに取り組み、最終的な収支決算は、約七十二万一千円の収益増となったが、まだまだ厳しい財政状況にあり、引き続き令和4年度も節約に努めることが報告された。

第2号議案　第64回全国社会教育研究大会（広島大会）について

第3号議案　第65回全国社会教育研究大会（宮崎大会）について

第4号議案　第66回全国社会教育研究大会（茨城大会）について

第5号議案　理事の退任及び選任について

退任：長畑誠（前東京都市町村社会教育委員連絡協議会会長）

就任・谷部憲一（東京都市町村社会教育委員連絡協議会会長）

報告

○第63回全国社会教育研究大会（石川大会）について

その他

1今後の会議予定

2「全国社会教育委員連合総会等の開催方法等に関する要望」について

理事会において、「九州地区各県社会教育委員連絡協議会」の各県の会長名で、「全国社会教育委員連合総会等の開催方法等に関する要望」と題する5月13日付の文書（別記）が5月16日（月）に鹿児島県教育庁社会教育課長からメールで会長宛に送付されたことを資料配布して報告した。理事会では、総会でも資料配布することとし、今回の要望は技術的な問題と本質的な問題を孕む問題で、簡単には結論が出せない問題だと認識してい

（別記）

令和４年５月１３日

一般社団法人 全国社会教育委員連合会長　殿

福岡県社会教育委員連絡協議会
会長　安部正俊
佐賀県社会教育委員連絡協議会
会長　上野景三
長崎県社会教育委員連絡協議会
会長　池田　浩
熊本県社会教育委員連絡協議会
会長　安部武夫
大分県社会教育委員連絡協議会
会長　盛本功爾郎
宮崎県社会教育委員連絡協議会
会長　井崎高信
鹿児島県社会教育委員連絡協議会
会長　岩橋恵子
沖縄県社会教育委員連絡協議会
会長　田端一正

全国社会教育委員連合総会等の開催方法等に関する要望

かねてから，九州地区各県社会教育委員連絡協議会の事業推進につきましては，日頃から格別の御支援と御協力を賜り，厚くお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が収まらない状況の中での総会等の開催方法について苦慮されていることと存じます。
つきましては，下記の事項について，特段の対応がなされますよう要望いたします。

記

1　要望事項
令和４年度以降の全国社会教育委員連合総会等におけるオンライン等開催について

2　要望理由
・　総会をはじめ各種会議が書面での審議が中心となっており，理事をはじめとする都道府県社会教育委員連絡協議会会長等による実際の議論や意見交換ができない状況である。
・　オンライン開催にあたっては，ハイブリッド型やサテライト会場を設定するなど，会議の内容や参加者の状況に応じた開催方法のエ夫をしていただければ，各県の意見が事業等に反映される。
・　オンライン等での開催により，旅費・移動時間の削減につながり，コロナ禍や自然災害の発生時等でも対応が可能になる。

なお，昨年度第４回理事会はオンラインで開催されているところではありますが，今後もオンライン等での開催を積極的に進めていただきたく，九州地区内各県社会教育委員連絡協議会長の総意として要望いたします。

ることを会長から伝えることで了承された。

総会では、「九州地区各県社会教育委員連絡協議会」から要望の文書が送付されたことと、理事会における検討内容について資料を配布して会長から報告された。その後、全体で意見交換を行い、最終的に、オンライン開催を進めるためには、費用やハード面の整備が必要になる。九州地区の要望は一つの意見として、今回の意見交換等をもとに、今後、会長はじめ役員の中でさらに検討を進めることとして了承された。

令和4年度 全国社会教育委員連合表彰 受賞者名一覧

本年度の「全国社会教育委員連合表彰」の受賞者が決まりました。令和4年10月26日(水)第64回全国社会教育研究大会(広島大会)開会式の席上で、次の56名の方が表彰されます。おめでとうございます。

表彰状受賞者(敬称略)

都道府県名	所属自治体	氏名
北海道	網走市	松井　弘
	北見市	野瀬　容子
	今金町	天沼　寧
	登別市	楠本　賢一
青森県	新郷村	佐藤　久美子
岩手県	洋野町	酒井　邦彦
宮城県	気仙沼市	小山　茂樹
秋田県	東成瀬村	谷藤　怜子
山形県	舟形町	小國　隆
福島県	小野町	阿部　君江
	西郷村	橋場　八代子
茨城県	水戸市	矢萩　紀行
群馬県	安中市	佐藤　忍
埼玉県	深谷市	根岸　雅子
千葉県	松戸市	福留　強
	九十九里町	齊藤　実
東京都	市町村	横澤　正世
神奈川県	茅ヶ崎市	吉原　弘子
新潟県	柏崎市	中山　博迪
富山県	滑川市	佐々　禮子
石川県	小松市	本村　与茂
福井県	越前町	佐々木　勝行
	越前町	松村　充
山梨県	甲斐市	立澤　眞一
長野県	大町市	柳澤　英幸
	上田市	関　和幸
岐阜県	高山市	今村　彰宏
静岡県	森町	村松　幸範
愛知県	大府市	池田　逸夫
	みよし市	秋松　成喜
三重県	大台町	山口　恵照
滋賀県	栗東市	奥野　初惠
京都府	宮津市	神田　潔
大阪府	阪南市	野村　正昭
兵庫県	尼崎市	江田　政亮
奈良県	十津川村	岩崎　まさゑ
和歌山県	上富田町	北條　哲生
鳥取県	三朝町	布廣　覚
島根県	吉賀町	朋澤　公香
広島県	安芸高田市	久保野　哲也
山口県	長門市	梶山　公則
徳島県	徳島市	細井　啓造
香川県	東かがわ市	江川　京子
愛媛県	四国中央市	石黒　忠則
福岡県	うきは市	鳥越　良雄
	筑前町	平山　克之
佐賀県	小城市	小柳　容子
長崎県	島原市	金子　統太郎
熊本県	玉東町	西川　昭男
大分県	由布市	岩尾　豊文
宮崎県	綾町	押田　明
鹿児島県	喜界町	積山　忠久
	姶良市	吉川　成子
指定都市	仙台市	高橋　満
	相模原市	大橋　千景
	広島市	正本　大

事務局だより

◆今後の会議予定

○令和4年度第2回理事会
期日：令和4年10月26日(水)
会場：広島YMCA国際文化センター

○令和4年度第2回総会
期日：令和4年10月27日(木)
会場：広島国際会議場

○都道府県・政令指定都市社会教育委員連絡協議会事務局担当者会議
期日：令和4年10月26日(水)
会場：広島YMCA国際文化センター

○令和4年度第3回理事会・総会
期日：未定
会場：日本弘道会ビル(東京都千代田区西神田)

◆令和4年度社会教育研究大会
全国大会・地区大会の開催予定等は、当会のホームページに掲載しています。随時更新していますので、ぜひご覧ください。